

1、教科 全教科・領域等

2、研究主題 「自分の考えをもち、考えを広げ深める子ども」
～探究的・創造的な学びを目指して～

3、研究主題設定の理由

昨年度は、「自分の考えをもち、考えを広げ深める子ども」～学びの個別最適化と協働化を通して、教科等の本質的な学びを実現する～を研究主題として、新学習指導要領から教科のねらいをふまえ、基礎学力を上げていくとともに、新学習指導要領における主体的、対話的、深い学びについての研究を進めてきた。また、習熟度等に合わせた個に応じた学び方を追究すると共に、他者との対話を通じた交流活動や全体共有を行うといった、個別最適化と協働化を通して、児童の考えが深まるような授業展開を進めてきた。それにより、児童が進んで自力解決し、試行錯誤しながら問題を解決する姿が見られ、意欲的に学習に取り組んだり、友達と考えを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりすることができた。

一方、考えをもつための基礎基本、学力不足から学習活動に取り組むことが難しい児童の支援・手立てが必要であるということや、個別から協働化へ学習を深める際に、教師がファシリテーターとして導く必要があることなどの課題がみられた。

また、七小の児童の実態として、特に以下4点の課題がみられる。

- ・各教科の内容における基礎的・基本的な知識・技能などの学力。
- ・自分で課題を生み出し、学習したことを活用して問題を自ら解決しようとする力。
- ・自分の考えをまとめ、適切に書いたり表現したり、伝えようとする力。
- ・自分の思いや考えを広げ、話を理解し考えを深めようとする力。

そこで、今年度の研究主題は、「自分の考えをもち、考えを広げ深める子ども」の2年目として、また副主題を～探究的・創造的な学びを目指して～として研究を進める。昨年度の副主題にある「個別最適化」「協働化」については本主題を通して前提とし、昨年度から取り入れられたGIGAスクール構想におけるICT等の活用を含め、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりを推進する。

副主題における「探究的・創造的な学び」は、基本的には、児童がわくわくし、意欲的に取り組むことができるような問題発見・問題解決的な授業展開を行い、児童の自由な発想や考えを創り出していくことを目指す。そこで児童が創造した自らの考えを友達に伝える表現や話し合いを通して、さらに自らの考えを深めるような学習の研究を進めていく。

研究主題に迫るために、①「学びの個別最適化」②「探究的・創造的な学習（学びのSTEAM化）」を視点とする。①においては、個に応じた学びを進めるとともに、「学びの自立化」として児童が自分ごととして学びを捉え、主体的に学習に向かうことや、基礎的な学力の定着を中心とする。②においては、「探究的・創造的な学び」として、課題を自ら見つける力、物事を様々な面からとらえ解決する力、新しい価値を創造する力を目指す。自ら解きたくなるような課題発見、問題設定を行うことで、児童の意欲的な学習につなげていく。

4、研究のねらい

(1) 目指す児童像

○自分の考えをもち、対話を通して、考えを深め合う子

◎自らから問題を発見し、学びの見通しをもち、学習活動に主体的に取り組む子

○身に付けた知識・技能を活用し、課題を解決しようとする子

(2) 研究仮説

各教科等の特質に応じた見方・考え方をもとに、探究的・創造的な学習を行い、ICTや地域人材の効果的な活用、個に応じた学びと学び合い、授業のユニバーサルデザイン化を工夫することで、児童が主体的に学習に取り組み、学習の理解が深まり、確かな学力を身に付けることができるであろう。

5、研究内容

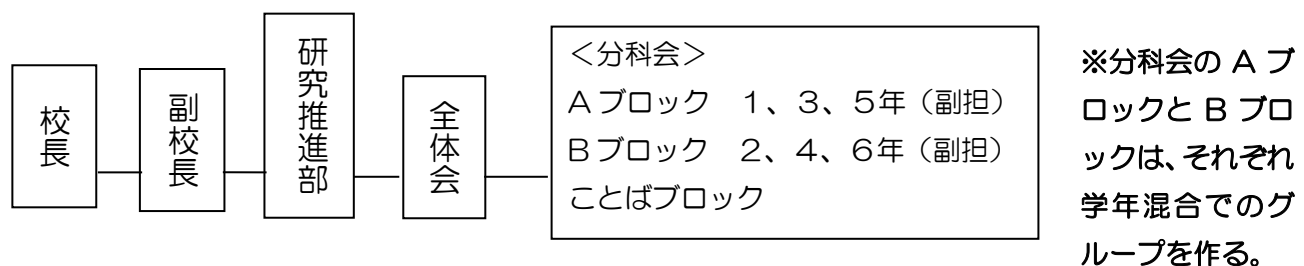
○一人一人の能力や適性に応じた「個別最適化」された学びの追及をするとともに、他者との対話を通じた交流活動や全体共有など、協働化した学習を行うことで、児童の学習が深まるようにする。

○探究的・創造的な学習の展開を行うことで、児童の主体的な学びにつなげる。

○授業のユニバーサルデザイン化を図ることで、児童の学習理解度を高め、基礎学力の定着を図る。

○ GIGA スクールに向けた ICT 機器の活用や地域人材等の効果的な活用を行う。

6、研究組織



7、研究計画

	日時	形態	内容	司会・記録
1	4月 2日 (金)	全体会・分科会	・研究構想、研究内容の確認 ・研究日程等の確認	(小倉)
2	4月21日(水)	全体会・分科会	・授業案検討	(小倉・北村・小原)
3	5月 7日 (金)	分科会	・指導案検討	(安木・浅井)
4	5月25日 (火)	分科会	・指導案検討	(小倉・小原)
5	6月 9日 (水)	研究授業①	・研究授業・協議会 (※富岡 T)	(小倉・北村)
6	6月28日 (月)	分科会	・指導案検討	(安木・浅井)
7	8月27日 (金)	全体会・分科会	・全体での確認・各分科会の話し合い	(小倉・北村・小原)
8	9月 8日 (水)	分科会	・指導案検討	(安木・浅井)
9	10月12日 (火)	分科会	・指導案検討	(小倉・小原)
10	10月25日 (月)	分科会	・指導案検討	(安木・浅井)
11	11月 5日 (金)	分科会	・指導案検討	(北村・小原)
12	11月17日 (水)	研究授業②	・研究授業・協議会 (※北村 T)	(小倉・浅井)
13	12月 1日 (水)	分科会	・各分科会の話し合い	(安木・浅井)
14	1月 7日 (木)	全体会・分科会	・成果と課題について	(小倉・小原)
15	1月26日 (水)	全体会・分科会	・成果と課題について	(小倉・安木・浅井)
16	2月22日 (火)	全体会	・新年度の方向性について	(小倉)

◇児童の課題◇

- ① 各教科の内容における基礎的・基本的な知識・技能などの学力。
- ② 自分で課題を生み出し、学習したことを活用して問題を自ら解決しようとする力。
- ③ 自分の考えをまとめ、適切に書いたり表現したり、伝えようとする力。
- ④ 自分の思いや考えを広げ、話を理解し考えを深めようとする力。

【研究主題】

「自分の考えをもち、考えを広げ深める子ども」
 ～ 探究的・創造的な学びを目指して ～

目指す児童像

- 自分の考えをもち、対話を通して、考えを深め合う子
- ◎自らから問題を発見し、学びの見通しをもち、学習活動に主体的に取り組む子
- 身に付けた知識・技能を活用し、課題を解決しようとする子

◇研究の仮説◇

各教科等の特質に応じた見方・考え方をもとに、探究的・創造的な学習を行い、ICTや地域人材の効果的な活用、個に応じた学びと学び合い、授業のユニバーサルデザイン化を工夫することで、児童が主体的に学習に取り組み、学習の理解が深まり、確かな学力を身に付けることができるであろう。

研究主題に迫るための視点

視点①
 学びの個別最適化

視点②
 探究的・創造的な学習
 (学びのSTEAM化)

研究の内容

基礎学力の
 定着を図る

- ・基礎タイム
 (ミライシード・ドリルパークの活用)
- ・授業の始まりと終わりの工夫
 (100ます計算・九九・漢字・ことば・フラッシュカードなど)
- ・Ipadの活用
- ・読書活動の充実、学校図書館の利用

学びの個別最適化を図る

- ・自力解決
- ・自分の考えの表出
- ・既習事項の活用と応用
- ・習熟度と理解度に合わせた学習

- ・児童と共に課題の設定
- ・学習する目的・単元のめあて・身に付ける力の明確化
- ・児童と共に学習計画の作成
- ・既習事項の振り返り(活用できる内容を考える)

ICT 機器や地域人材
 等の効果的な活用

学びの協働化を図る

- ・ペア・グループ交流
- ・効果的なグループ編成
- ・効果的な話し合いのタイミング
- ・話し合いの内容の価値付け、全体共有
- ・ファシリテーターとしての児童の学びが深まる効果的な話し合いの進め方

- ・ICT 機器の効果的な活用
- ・地域人材の活用

探究的・創造的な
 学習を図る

- ・児童の自由な発想を尊重した学びの追究
- ・自ら解きたくなるような課題発見、問題設定、発問の工夫

授業のユニバーサル
 デザイン化

- ・分かりやすい授業に向けての、視覚化、焦点化、共有化